

**神戸市 レベル4モビリティ・地域コミッティ 最終報告会議事録**

■日時：2026年2月25日（水）10:00～11:00

■場所：神戸三宮ビル7階 701会議室

■参加者 ※敬称略

近畿運輸局	自動車技術安全部 技術課	自動運転審査係長 松本 洵矢
近畿地方整備局	兵庫国道事務所	総括保全対策官 平尾 紀之
近畿経済産業局	地域経済部 地域連携推進課	総括係員 藤田 梨沙
兵庫県警察	交通部交通企画課	上席係長 木根 祥太
	交通部交通規制課	課長補佐 正置 好章
神戸市	建設局 道路管理課	課長 藤本 章夫
	建設局 道路計画課	係長 中田 将紀
	建設局 東部建設事務所	係長 石川 彰太
兵庫県警察	東灘警察署	課長 藤野 隆志 上席係長 大橋 剛
日産自動車（株）	総合研究所 モビリティ&AI 研究所	主任研究員 畑山 隼一
Moplus(株)	経営戦略部	デピュティ・ゼネラルマネージャー 丹藤 玲
	商品・技術部	デピュティ・ゼネラルマネージャー キアット アブデラジズ
神戸市	都市局 交通政策課	部長 久保 真成
		課長 大西 一成
		係長 竹園 紘樹 永井 由紀子
	地域協働局 SDGs 推進課	課長 竹原 澄江 係長 川口 敬太
	経済観光局 ファッション産業課	課長 八木 美咲 係長 土屋 佐枝

## 【実証事業に関する意見交換】

(構成員)

手動介入が1回もなく、スムーズな運転で深い感銘を受けた。

今後、アプリ等を使い、酒蔵・駅間など、利用者が目的地を指定する形式にするのか。

(事務局)

来年度は、利用者がどの駅・地点からどこへ移動しているのか、適切な乗降ポイント、適正車両台数と事業成立性を見極めるため、重点調査を行いたいと考えている。

(構成員)

兵庫県内では本年度5地域の自動運転実証運行を実施した。2か所で物損事故はあったが、人的被害はなかった。

日産の実証運行は問題なく、安全性を評価している。来年度も安全最優先での継続をお願いしたい。

(構成員)

手動介入した中で時間的な制約ではなく、他の原因で手動介入を行わないと運行できない事象に陥ったことはなかったのか。

(事務局)

円滑な試乗会を運行するため時間的制約による介入が多かった。

一度、自動運転システムが一時的に停止したため、試乗運行のやり直しが発生した。

次年度は信頼性を向上させた車両の導入を予定している。

(構成員)

人の動きに合わせた自然な減速・走行が実現できており、高く評価している。

横断歩道・交差点での動きについて、横断歩道上で停止する事象があったが、横断歩道に入らず停止したほうが望ましく、技術的に改善は可能なのか。

(事務局)

地図情報の改善で解決できると考えている。

(構成員)

実証運行が無事に終了し、想像以上に完成度が高く非常に良かった。

次年度以降の運行は、今年度より多くの人が乗車体験できる機会を確保してほしい。

来年度の実証実験を予定している時期はあるのか。

(事務局)

次年度の国費の補助金を申請、採択された後と考えている。そのため、早くとも秋・冬を想定している。

(構成員)

アンケートで日常生活における送迎ニーズが高いが、今後、有償化になることを伝えていたのか。

有償化における料金の想定価格はあるのか。

(事務局)

明確に有償化になるとは伝えていないが、このまま無償で乗れるという理解はしていないと思う。

価格は未定である。来年度にニーズやサービスなど許容価格帯を調査する予定である。

(構成員)

高齢者の免許返納者への割引などがあると利用が増えるのではないかと。

(事務局)

将来的に検討が必要かもしれないが、まずは料金体系を考えていかなければならない。

(構成員)

有償のタイミングで日産のテストドライバーではなく、地元の交通事業者やタクシー会社に移管する予定はあるのか。

(事務局)

今後、地元の事業者に参加していただきたいと考えている。

(構成員)

有償化に伴い、高齢者や観光客へ向けたアプリなどでの予約のシステムの方向性をどのように考えているのか。

(事務局)

アプリの導入は想定している。

観光地向けの駅設置タッチパネル型予約機は、他都市での事例もある。

他の自治体でも高齢者向けには、電話予約対応も行っている。

(構成員)

実証運行は安全で何の問題なかった。

交差点で車両同士が「お見合い状態」で止まってしまったが、本来なら直進車両が優先であるが右折車両を先に行かせた。自動運転ではどのような判断をしているのか。

(事務局)

大型車等で進路が塞がれる可能性がある時は、安全側に対応するロジックを採用している。必要に応じて改善検証を継続していく。

(構成員)

国道43号線（制限速度40km/h）では、実際の交通流は早く、例えば右折の際、右車線へ移るのが難しいのではないかと。

(事務局)

現時点では未検証なので、今後の課題として認識している。

以上